

## 認知症カフェえんの森、再開!

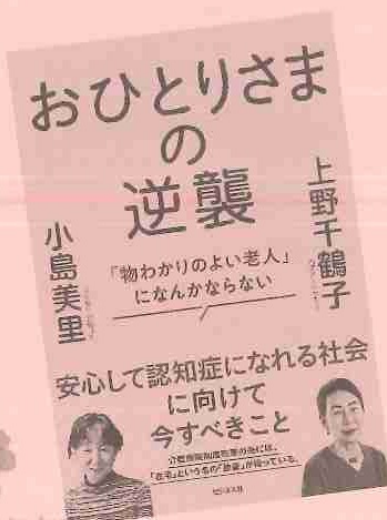
早すぎる春が訪れた今年、えんの庭に花々が咲きそろいました。種々の水仙、歌のとおりに赤白黄色と並んだチューリップ、山野草の類も多く、ニ輪草、ヒトリシズカ、エビネ。木に咲くのは杏、利休梅、レンギョウ、白山吹、黄山吹、雪柳…。今年は花のつきが良いと思ったら、お庭のボランティアさんから「寒いうちに肥料をたっぷりあげておいた」と聞きました。外との交流が途絶えたコロナ下の3年間、グループホームやデイホームの利用者さんはもちろん、ステイホームなしで働くスタッフたちみんながこの庭に慰められてきました。

感染拡大から3年余、5月の連休明けに新型コロナウイルスは季節性インフルエンザと同じ感染症第5類になり、収束したかのようです。けれども連休にかけて第9波が来ると予想されています。高齢者にとっては命取りになる病気ですから、介護に携わる私たちはまだまだ気を緩められません。

それでも、長いこと制限してきた地域との交流やボランティアさんの活動を再開するきっかけになるのは嬉しいことです。まずは認知症カフェ「カフェえんの森」から始めようと準備しています。これまでは、認知症に対する基本的な知識を地域の人に知っていただくことを中心に開いてきましたが、これからの認知症カフェえんの森の役割は、一歩進めて「認知症になったかな?」と思っているご本人と家族を支えることと考えました。依然として「認知症にだけはなりたくない」という意識は根強く残り、当事者になった人々を苦しめていますから、「認知症になっても大丈夫」と感じられるカフェにしたい。認知症カフェにも「認知症予防」を求められる傾向がありますが、それが本人に「予防を怠った」と突き刺さることも肝に銘じておきましょう。

しばらくは感染防止のために人数制限(10名まで)させていただきますが、是非ご参加ください。

代表理事 小島美里



上野千鶴子さんと小島の共著  
～おひとりさまの逆襲～「物わりのよい老人」  
になんかならない(ビジネス社)  
が4月発刊されました。「おひとりさまシリーズ」  
の上野さんと小島の徹底討論、お読みいただければ  
幸いです。